

# ひょうご JCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

coop

89

2018. 10. 31

兵庫 JCC は、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の兵庫県内の協同組合組織相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して一協同が息づくまちづくり」を基本理念として、共通行動目標の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ ..... 1
2. 第96回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開く ..... 2
3. 第96回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会 兵庫 JCC 宣言 ... 3
4. 記念講演「知っていますか？SDGs(持続可能な開発目標) 国谷裕子さんと考える、誰一人取り残さない社会」 ..... 4
5. 2018 年度「虹の仲間づくりカレッジ」がスタート ..... 5

Contents

6. 今協同組合では一各協同組合からの報告一  
生協/JForest（森林組合） ..... 6  
JF（漁協）/JA（農協） ..... 7
7. 協同組合運動に生きる  
協同組合の一員として  
兵庫県漁業協同組合連合会 指導部 広報担当 主任 原 和也 ... 8

## ● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

### ピースアクション 2018 広島被爆ピアノ平和コンサート



生協

7月28日、兵庫県会館けんみんホールで、「ピースアクション2018広島被爆ピアノ平和コンサート」を開催し、195人がつどいました。会場は被爆ピアノの音色と平和への願いを込めた歌声に包まれ、次世代へ語り継ぐ平和の想いを新たにしました。

### 地域密着型支店づくり実践大会を開く



JA（農協）

7月24日、神戸市西区のホテルで地域密着型支店づくり実践大会を開き、JA職員等63人が参加しました。実践報告やパネルディスカッション、先進事例発表を行い、地域密着活動の一層の活性化をはかりました。

### 安全運航講習会を開く



JF（漁協）

8月7日、漁船乗組員を対象に安全運航講習会が芦屋市・海技大学校で開催され、参加者は「操船シミュレーター体験」や「救急救命」について学びました。

### 兵庫県林業会館 CLT 構造見学会を開く



JForest（森林組合）

9月3日に林業会館CLT構造見学会を開催しました。CLTの概要説明、施工現場見学を行い、多くの方にご出席いただきました。（6ページに詳報）

#### ●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）  
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives  
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

#### ●兵庫 JCC 事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078) 391-8634  
兵庫県農業協同組合中央会 TEL(078) 333-5896  
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078) 940-8013  
兵庫県森林組合連合会 TEL(078) 381-5425

# 第96回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開く

国際協同組合デーは、毎年7月の第1土曜日に、世界の協同組合員が心を一つにして協同組合運動の発展を祝い、平和とより良い生活を築くために運動の前進を誓い合う日です。

兵庫 JCC では7月6日、兵庫県民会館けんみんホールで「協同の力で未来を拓く」をテーマに、第96回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催。

県内の生協、JA（農協）、JF（漁協）、森林組合の組合員や役員と職員など230人が参加しました。

第1部の記念式典では、主催者を代表して兵庫県漁業協同組合連合会の田沼政男会長が挨拶し、兵庫県の荒木副知事、神戸市経済観光局の長沢農政担当局長、日本協同組合連携機構の青竹常務理事から祝辞をいただき

ました。また、兵庫県農業協同組合中央会の丸山直幸さんが兵庫 JCC 宣言を朗読し、満場一致で採択されました。

第2部では、クローズアップ現代のキャスターを23年間つとめ、現在、「SDGs（持続可能な開発目標）」の啓発活動に取り組まれている国谷裕子氏が、「知っていますか？ SDGs（持続可能な開発目標）国谷裕子さんと考える、誰一人取り残さない社会」と題して記念講演。

SDGs が採択された背景や一人ひとりが考えるべきことについて分かりやすくお話しいただきました。また、SDGs と協同組合は親和性が高いので、協同組合に期待する役割は大きいとの言葉をいただきました。

※記念講演は4ページを参照



主催者挨拶をする兵庫県漁業協同組合連合会の田沼会長



兵庫 JCC 宣言を読み上げる丸山さん



会場の様子

## 第96回国際協同組合デー・兵庫県記念大会

**第96回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会 兵庫JCC宣言**

本日、第96回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催し、兵庫県内の生協、農協、漁協、森林組合の協同組合関係者が一堂に集まり、心を一つに協同組合運動のさらなる発展を誓う日を迎えることができました。

国際協同組合デーは、1923年、「国際協同組合同盟（ICA）」が提唱し、協同組合運動を全世界で発展させ、その協同組合の理念と価値を広げ、より良い社会を築くことを目指して、毎年欠かさずことなく開催されてきました。

国連は2012年を「国際協同組合年」と定め、2016年には「協同組合の思想と実践」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。また、2015年国連サミットで定められた、2030年までに達成すべき17の環境や開発に関する国際目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けての推進役として「協同組合」が明記されるなど、国際的にも協同組合に対する評価と実践への期待が高まっています。私たち協同組合は「助け合いの組織」として、その使命と役割をしっかりと果たしていかねばなりません。

グローバル化がすすむ一方で、貧富の格差拡大が問題になっています。また、わが国では、人口減少・高齢化にどう立ち向かっていくかが深刻な課題です。そうした中、今年4月、わが国の協同組合運動をリードする「日本協同組合連携機構（JCA）」が発足しました。

今年の国際協同組合デーの世界共通スローガンは、「協同を通じた持続可能な社会へ」です。わたしたち兵庫JCCは県内の協同組合間の連携をより一層強固にするとともに、全国の協同組合の仲間たちと手を携え、世界に視野を広げて協同組合運動をすすめます。

今年は兵庫JCC35周年、兵庫県政150周年となる記念の年です。大きな節目にあたり、兵庫JCCは、「協同の力で未来を拓く」をスローガンに、より安心して暮らせる豊かな地域社会が築けるよう、積極的に活動を展開します。

以上、わたしたちは、協同組合の先人たちの志を引き継ぎ、次世代へとつなぐために行動し、協同組合をより一層、発展させることをここに宣言いたします。

2018年7月6日

第96回 国際協同組合デー・兵庫県記念大会

**兵庫 JCC = 兵庫県協同組合連絡協議会 = とは  
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives**

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）は、兵庫県内の生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の相互交流と連携強化を目的に、1984年7月の第62回国際協同組合デーを機に設立されました。

## 第96回国際協同組合デー・兵庫県記念大会

## 【記念講演】

# 知っていますか？SDGs(持続可能な開発目標) 国谷裕子さんと考える、誰一人取り残さない社会



## 講師：国谷裕子さんのプロフィール

大阪府生まれ。米ブラウン大学卒業。1993年から2016年までNHK総合テレビ「クローズアップ現代」キャスターをつとめる。

現在、東京芸術大学理事、慶応義塾大学特別招聘教授、自然エネルギー財団理事、国連・食糧農業機関（FAO）親善大使。2016年からSDGsの啓発活動に取り組む。

## ・SDGsはなぜできたのか？

SDGs（持続可能な開発目標）は2015年9月の国連サミットで、参加193カ国の全会一致で採択され、2030年までに達成すべき17の目標、169のターゲット、232の指標が決められました。

採択された背景には、①ミレニアム開発目標（2000年～2015年）の最終年を迎えたが達成できていない項目が多いこと、②地球環境が限界に達していること、③社会的に様々な新しい現象が生じていることがあります。特に、②地球環境について、地球のシステムそのものが崩壊してしまうのではという危機感が、世界を動かしました。

SDGsの前文には、「我々は地球を破壊から守ることを決意する」、「我々はこの共同の旅路に乗り出すにあたり誰一人取り残さない」と書かれており、これらがSDGsの精神の柱になっています。また、「私たちが地球を救う機会を持つ最後の世代になるかも知れない」とも書かれており、実践が強く求められています。

## ・SDGsと協同組合の関係

協同組合はSDGsの推進役に位置付けられていますし、「互いに助け合う（相互扶助）」という協同組合の理念と「誰一人取り残さない」というSDGsの理念は類似しており、SDGsと協同組合の親和性は非常に高いです。これまでの協同組合の様々な取り組みをSDGsの17の目標に当てはめると、親和性が高いことに改めて気づくと思います。

また、SDGsの17番目の目標に「パートナーシップ」があげられ、様々な連携や協業が求められており、協同組合への期待が高まっているといえます。こういった中、2018年4月に、協同組合間連携を促進する組織である「日本協同組合連携機構」（JCA）が設立されたことは非常に良い

タイミングだったと思われます。

## ・日本の取り組み状況

日本では、SDGsの認知度がまだまだ低く、アンケート結果によると12～15%ほどしか認知されていません。SDGsについて良く知っていると言ったのは、企業の経営者や管理職が多いですが、SDGsは将来の環境や社会のことは見据えたものであるとともに、ジェンダー平等が目標に掲げられていますので、実際により響くのは若者と女性です。そのため、そういった人たちにこそ関心をもってもらいたいと思います。

また、2017年にドイツのベルテスマン財団が示した調査では、日本には、取り組みが不十分な分野が数多くあることが示されています。同調査によると、日本は「5. ジェンダー平等」、「12. 生産・消費の責任」、「13. 気候変動」、「15. 陸上資源」、「17. パートナーシップ」の5つの目標について、達成がほど遠い状況とされています。また、「7. エネルギー」、「10. 不平等の是正」、「14. 海洋資源」の3つの目標については、課題が多い状況とされており、改善が求められます。

## ・できることから実践を

SDGsの各目標は密接に関係しており、互いの関連性を意識して取り組むことが非常に重要です。また、SDGsには目標やターゲットが示されていますが、具体的な取り組み内容は書かれていません。そのため、各国、各企業・団体、各自が何をできるか自ら考え、自分ごととして捉え、それを実践していかなければなりません。

地球を破壊から守るために、世界・国・行政・企業・生活がどういうあり方が良いのかをSDGsの目標に沿って考えて、できることから実践して欲しいと思います。

# 2018年度 「虹の仲間づくりカレッジ」がスタート

兵庫 JCC では、協同組合の職員同士が顔の見える関係をつくり、くらし、地域、社会の中で果たすべき役割についてともに考えることを目的に、2015 年度から生活協同組合コープこうべとの共催で「虹の仲間づくりカレッジ」を開いています。今年度は、「生産」「環境」「地域のコミュニティ」が抱える課題を「協同組合としていかに解決するか」をテーマに、全3回の講座を開きます。

第1回は、8月21日～22日にコープこうべ協同学苑で開き、26人が参加しました。

コープおきなわの石原修氏が、「現代・未来における協同組合の可能性と挑戦」と題して、学校授業に地域の特産物を使った商品開発を組み込み、特産物の消費拡大や地域活性化につなげる取り組みについて講演しました。

また、一般社団法人イマココラボの稲村健

夫氏が、「SDGs とは何か? ～ SDGs カードゲームで学ぶ～」と題して、SDGs についての講演や理解を深めるワークを行いました。この講演・ワークは公開講座として行い、虹の仲間づくりカレッジの参加者以外から12人が参加しました。

その後、各協同組合から、兵庫県内の「生産」「環境」「地域のコミュニティ」が抱える課題と課題に対する取り組みについて報告しました。参加者は、講演や事例報告を受けて、これらの課題に対して協同組合が連携してできることを話し合い、実践活動の企画づくりを行いました。

第2回は、10月23日に開催し、10月から2月に行う実践活動の具体的な計画づくりを進めました。



講演や事例発表を受けて、企画づくりをすすめました



講演するコープおきなわの石原さん



SDGs カードゲームの様子

# 今 協同組合では —各協同組合からの報告—

## 生協から

### 「ひょうごまるごと健康チャレンジ2018」キックオフ大会 ～カラダはじめ・はかるのチャレンジ DAY～を開く

これまで医療生協が独自に取り組んできた「健康チャレンジ」。今年度から、県内の生協や協同組合と一緒に取り組む「ひょうごまるごと健康チャレンジ2018」として12月31日まで実施しています。

9月22日、キックオフを兼ね、コープこうべ「協同学苑」を会場に、各生協の「食と健康」に関する様々な活動や取り組みを学習、体験できる「カラダはじめ・はかるのチャレンジ DAY」を開催し、県内各地から約800人の参加で賑わいました。

協同学苑の中庭を活用し、ミニライブコンサートやスポーツ体験の他、各ブースの見どころ紹介を行いました。研修棟ではコープこうべや医療生協（神戸・尼崎・阪神・姫路）、コープ共済や兵庫県ユニセフ協会等が、健康づくりに向けた特徴ある取り組みを紹介しました。また、ろっこう医療生協が、中庭の回廊を活用して「カラダに優しい歩き方測定」を実施した他、その隣ではJA兵庫中央会が地場産野菜やおにぎりを、JA兵庫漁連が牡蠣お好み焼き等を販売する等、県内の生協や協同組合が一緒になって取り組みました。

午後からは、「BDHQ（簡易型自記式食事歴法質問票）」を提唱している東京大学大学院佐々木敏教授とラジオ関西の三上公也アナウンサーによるトークセッション「健康と食生活 栄養健康リテラシーを身に着けよう！」を開催。生活習慣や食習慣を改善することの大切さや、各生協が取り組んでいる様々な食生活と健康に関する活動を知る良い機会になりました。



健康と食生活をテーマにした  
トークセッション

## JForest(森林組合)から

### 兵庫県林業会館 CLT 構造見学会を開く

木材利用が進んでこなかったオフィスビル、とりわけ都心部防火地域における中高層ビルへの木材利用の促進を目的として、平成29年3月に兵庫県林業会館新築工事建築実証協議会を立ち上げ、今年3月から建設中の兵庫県林業会館で、9月3日にCLT（直交集成板）構造見学会が開催されました。

見学会は、同協議会の主催で行われ、林業会館の建て替えの目的やこれまでの取り組み、「CLTと鉄骨のハイブリッド構造」の概要などの説明を行いました。その後、現在施工中の林業会館3階部分と4階のCLT壁を見学していただきました。見学会には建築関係者や行政関係者をはじめとする多くの方々から、予定していた定員を超える222人の応募をいただき、注目の高さがうかがえました。

林業会館は、9月現在5階までの鉄骨が組みあがり、CLTパネルの設置が進んでいます。来年1月の完成を目指し順調に工事が進んでいます。

林業会館の建て替えを通して、普及性の高い木造技術の展開を目指し、木材需要の拡大に取り組んでいきます。



CLTの概要を説明



建設現場を見学

## JF(漁協)から

### 豊漁祈願祭・兵庫県漁業協同組合長懇談会を開く

兵庫県漁業協同組合連合会は、7月19日、淡路市内において「豊漁祈願祭」ならびに「兵庫県漁業協同組合長懇談会」を開催しました。

はじめに、伊弉諾神宮で行われた「豊漁祈願祭」では、JF 組合長、系統団体、行政から約 70 人が出席し、参加者一同が豊かな海の創出と豊漁、操業の安全を祈願しました。

その後、淡路夢舞台国際会議場に場所を移し、「兵庫県漁業協同組合長懇談会」を開催し、「水産政策の改革について」と題した講演が行われました。この講演では、現在、漁業法、水産業協同組合法の改正を視野に入れて進められている漁業権制度や漁業協同組合に係る改革案について講師から詳しく説明がありました。講演後の質疑応答は多くの参加者から様々な意見や質問が出されるなど、1 時間を超えるものとなり、当該テーマに対する参加者の関心の高さがうかがわれました。



豊かな海づくりと豊漁を祈願

### マリンスクールを開く～協同組合間協同の取り組み～

コープこうべ・JF 神戸市・JF 兵庫漁連による協同組合間連携事業として毎年実施している「マリンスクール」を、7 月に JF 神戸市で、8 月には兵庫県水産会館にて開催しました。

参加された親子（約 180 人）は、「セリ市」の見学や「魚のつかみ取り」、「干しダコ作り」や「アジの三枚おろし」などを体験したほか、「兵庫の漁業と環境のつながり」について学習しました。

このような活動を通して、兵庫の海・豊かな海について知ってもらい、漁業や水産物をより身近に感じてもらえるよう、今後とも魚食普及活動に取り組みます。



魚のつかみ取り



漁業と環境のつながりを学習

## JA(農協)から

### SNS を活用した情報発信

JA 兵庫中央会では、JA グループに対する認知度とイメージの向上を目指して、利用者が多く情報発信の機動性が高い SNS（ソーシャル・ネットワーク・システム）を活用した広報活動を進めています。具体的には、「インスタグラム」において、JA 兵庫中央会のアカウントを取得し、運用を開始します。

兵庫県の旬の農産物、地域の新鮮な野菜が並ぶ直売所、普段目にする事の少ない農業の裏側、農家しか知らない美しい圃場風景、珍しい野菜料理などの魅力的な写真を掲載していきます。そして、JA とつながりがなかった人や農業についてあまり関心が無かった人に、JA や兵庫県の農畜産物を知ってもらい、良いイメージを持ってもらいたいと考えています。

記事の掲載にあたっては、分かりやすい表現で親しみやすい雰囲気をつくり、きれいで魅力的な写真を掲載することを意識しています。

今後、インスタグラムの利用や効果等の状況を検証して、他の SNS の活用も検討する予定です。



魅力的な写真を発信（イメージ）

## 協同組合運動 に生きる

## 協同組合の一員として



兵庫県漁業協同組合連合会 指導部 広報担当 主任 **原 和也**

私が兵庫県漁業協同組合連合会で働き始めたのは2010年で、「のり共販部」という部署に着任しました。恥ずかしながら兵庫県が全国有数の海苔生産地であることは、入会後に知りました。その後、「加工場」→「指導部広報担当」と、現在を含め3つの部署を経験させていただきました。

1つ目の「のり共販部」では、冬の高苔生産時期に備えての高苔網への種付け作業や、高苔漁期へ入れば県内で生産された高苔を集荷し、入札会を開催するための準備等を行っていました。

入会2日目に実際に高苔の検査を行い等級を付ける作業のお手伝いをさせていただき、高苔箱と呼ばれる高苔が3600枚入った約12kgの段ボール箱を、重たすぎて持つことができず、同じ現場で働いていた先輩職員の方がびっくりしていたのを今でも覚えています。

2つ目の「加工場」では、当会ロングセラー商品のたこのやわらか煮や、いかなごのくぎ煮・ちりめん佃煮など、県内で漁獲されるタコやイカナゴ・ちりめん等の多獲性魚種を加工する作業を行っていました。特に2月から3月にかけてのいかなご漁が始まると、加工場に隣接する漁港から水揚げされた新鮮ないかなごが次から次へと入荷され、朝から晩までくぎ煮を炊き続けるというような日もあります。その時期はイカナゴはたくさん獲れるものだと思っていましたが、年々漁獲量は減っていき、漁期も短くなりました。その原因は海の高環境変化によるものということも、後々知ることとなりました。

現在の「指導部広報担当」という部署では、「ひょうごのお魚ファンクラブ SEAT-CLUB」を運営し魚食文化の普及・継承を推進する活動を行っています。県内の小中学校へ行きタコや魚のさばき方を教える出前教室や、一般の消費者の方々に兵庫の旬の海の幸の良さを知っていただく料理教室の開催、また

漁業体験や産地見学など、兵庫の魚食普及の発信基地として日々活動しています。

よく耳にする魚食離れという言葉ですが、魚を食べることが好きな私にとって本当なのかと疑っていました。しかし現在の部署で仕事をしていく中で、「生臭いから嫌い」「調理が大変」「食べ方が分からない」などの様々な理由で魚を食べることから離れてしまっている人が多くいることが分かりました。

一方でカルシウムをはじめとするミネラル、DHAやEPA等の魚の持つ栄養素に対する評価や、2013年に「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録された例から見ても、日本の魚食文化は今や欧米を中心に世界的に評価されており、日本が誇る文化のひとつとなっています。

嫌いなものは食べなくても良い、確かにそうかもしれない。しかしそれを続けると、魚は消費されなくなり、漁業者の数や後継者も減ってしまい、漁業という産業の衰退にもつながりかねません。現に兵庫県の漁業者の半数は60歳以上の方で占められており、さらに海の高環境変化で魚が少なくなり漁獲量も減少する等、追い打ちをかけるような事も起こっています。特に皆さんもご存知の通り、イカナゴの漁獲量の減少は目に見えて表れています。しかし漁業者の方々も状況が良くなるのを待つだけではなく、産卵礁の設置や海底耕耘など、海を高豊かにし、魚が増えるような高環境づくりも自ら行っています。私は日々の業務や活動を通じて、兵庫の海をとりまく高環境や、漁業者の活動を広く一般消費者の方々を知っていただき、日本の伝統である魚食文化を高絶やさぬことが本当に大切だと考えています。そして地元の魚を食べることが、漁業を守り、消費者自らの生活を守ることに高つながる事を同時に伝え、漁業協同組合の人間として、漁業者が生業を続けられるよう、漁業のさらなる高発展に高貢献して高いきたいと思っています。